

基盤的災害情報流通ネットワーク:SIP4D

SIP4Dは、災害対応に必要とされる情報を多様な情報源から収集し、利用しやすい形式に変換して迅速に配信する機能を備えた、災害情報の基盤的流通を担う仕組みです。

第一の特徴：災害情報の仲介型運用機能

SIP4Dは、提供側と利活用側の間で仲介役を果たすことにより、それぞれのシステムがSIP4Dと接続するだけで、他のシステムとの間で情報を相互に交換できるようにします。この機能により情報を取得するための開発費や組織間の調整コストを大幅に削減でき、容易に情報共有を実現できます。

第二の特徴：標準的な災害情報プロダクツの提供

災害対応に必要とされる多種多様な情報を標準的な形式に統合して、災害対応の現場ですぐに使える情報プロダクツとして提供します。



SIP4D利活用システムで提案する構造：分散相互運用

- ・ユーザインタフェース： 各機関の欲しい状況を分散的にプリセット
- ・データベース： 各機関がデータを相互に持ち寄る



みちのくALERT2018での活用事例

- 平成30年11月9日に実施されたみちのくALERT2018において、相互運用環境をSIP4D利活用システムを用いて試験的に構築し、陸上自衛隊東北方面総監部、東北6県に対し、災害情報の共有を図った。
- その結果、システムによる情報共有の有効性、使用システム・使用地図・地図記号等の統一が不可欠であること、が認知された。
- 今後は、災害情報システムに関する情報交換会を開催し、情報共有のルール（ピクトグラム、表示方法、共有すべき項目等）の統一に向けた活動を推進していく予定である。



《訓練の概要》

陸上自衛隊東北方面総監部（仙台市）が幹事となり、東北6県および市町村が参加する大規模総合防災訓練。4年に1度開催される。前回は2014年の開催。



仙台駐屯地の様子：

体育館の前方に設置された大型モニターにSP4D利活用システムの画面が表示された。

SIP4D利活用システムの画面



仙台駐屯地



青森県庁



青森駐屯地



神町駐屯地(山形県)



福島県庁